

さくら

平成 29 年 12 月 6 日号(29-07)

桜小学校長 発行

<http://sakura-e.yatomi-schoolnet.jp/>

自己への問いかけを深め、よりよい生き方を求める児童の育成

先月の11月21日(火)、海部教育事務所長様、海部地区の教育長様方をはじめ、多くのご来賓の皆様方、また、海部地区、尾張地区、知多地区、三河地区の先生方、260名をお迎えして、平成30年度から始まる「特別の教科 道徳」の研究協議会を本校で開催しました。

当日は、本校で力を入れている合唱を聴いていただき、研究提案の後、各学級で道徳の研究授業を行いました。一つの道徳的課題に対して、自分でじっくりと考えた後、友だちと議論し、対話することにより、物事を多面的・多角的に考え、自分の考えを深く掘り下げていく。対話する相手は、友だちですが、最後は自分自身です。友だちの意見を聞いて、「なるほど、そういう考えもあるな、僕はそこまで考えていなかったなあ」「あの子の考えも分かるなあ」「自分は、そこには気付かなかったなあ」「今まで自分が考えていた親切は、ひょっとしたら本当の親切ではなかったのかもしれない」といったように、「自分が自分に自分の生き方を問う」中で、道徳性を高めていくというわけです。

これからの子どもたちは、情報化やグローバル化の進展、人工知能の進化等により加速度的に変化している社会において、正解が一つではない、あるいは正解がまったくない問題に向かわなくてはなりません。そのためには、知識や科学的な判断力とともに、様々な文化や多様な価値観をもつ人々と互いに理解し合い、尊重し、協働し合うこと、高い倫理観や道徳性を有することが必要になります。「自己への問いかけを深め、よりよい生き方を求める児童の育成」を目指して、今後とも道徳教育に力を入れていきたいと思っております。日頃より、本校の道徳教育について、様々なご協力をいただき、ありがとうございます。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。



「あいりちゃん」が咲きました！

桜小学校の南校舎前の花壇に、ひとつの小さな花が咲きました。花の名前は「あいりちゃん」。白い花を付けたかわいらしいフランス菊です……

東日本大震災の時、当時6歳だった幼稚園児 佐藤愛梨ちゃん。愛梨ちゃんは、高いところにある幼稚園から地震直後に発車したバスに乗って家に帰る途中に、津波に襲われ、バスが燃えてしまい、他の園児4人とともに亡くなりました。震災から3日後に発見されたときには、抱きしめて上げることもできなかったそうです。

震災から4年後の5月27日、愛梨ちゃんのご遺体を発見した場所、そこは工事現場になっていたようですが、ちょうどそこにフランス菊というかわいらしい花が寄り添って咲いていたそうです。愛梨ちゃんが「私はここにいるよ」と言っているかのように咲いていたようです。それを見つけられた芸術家の菅原さんが、そのフランス菊の1株を持ち帰って自宅で栽培されたところ、再び花を開いたそうです。菅原さんは、そんな奇跡の花を「あいりちゃん」と名付け、愛梨ちゃんの分身として、「あいりちゃん」を正式に登録されました。

桜小学校の花壇に咲いた、ひとつの小さな花、それが「あいりちゃん」なのです。佐藤愛梨さんや亡くなられた多くの方々のことを忘れないために、また、地震などの大きな災害のことを忘れずに、常に備えておくことを心に留めておくために植えていただいています。これは、全国で展開されている「アイリブルプロジェクト」の一環で、弥富市内でも行われている活動の一つです。このプロジェクトでは、2020年、愛梨ちゃん発見現場に完成予定の石巻復興祈念公園に全国各地で育てたフランス菊の株を集め、花畑を作り、犠牲者の御霊を慰め、命をつなぎ続ける活動を行っていくそうです。先月の児童朝礼でも紹介しました。子どもたちも真剣に聴き入っていました。

保健室前の花壇に育っています。ご来校の折には、ぜひ、「あいりちゃん」をご覧ください。

